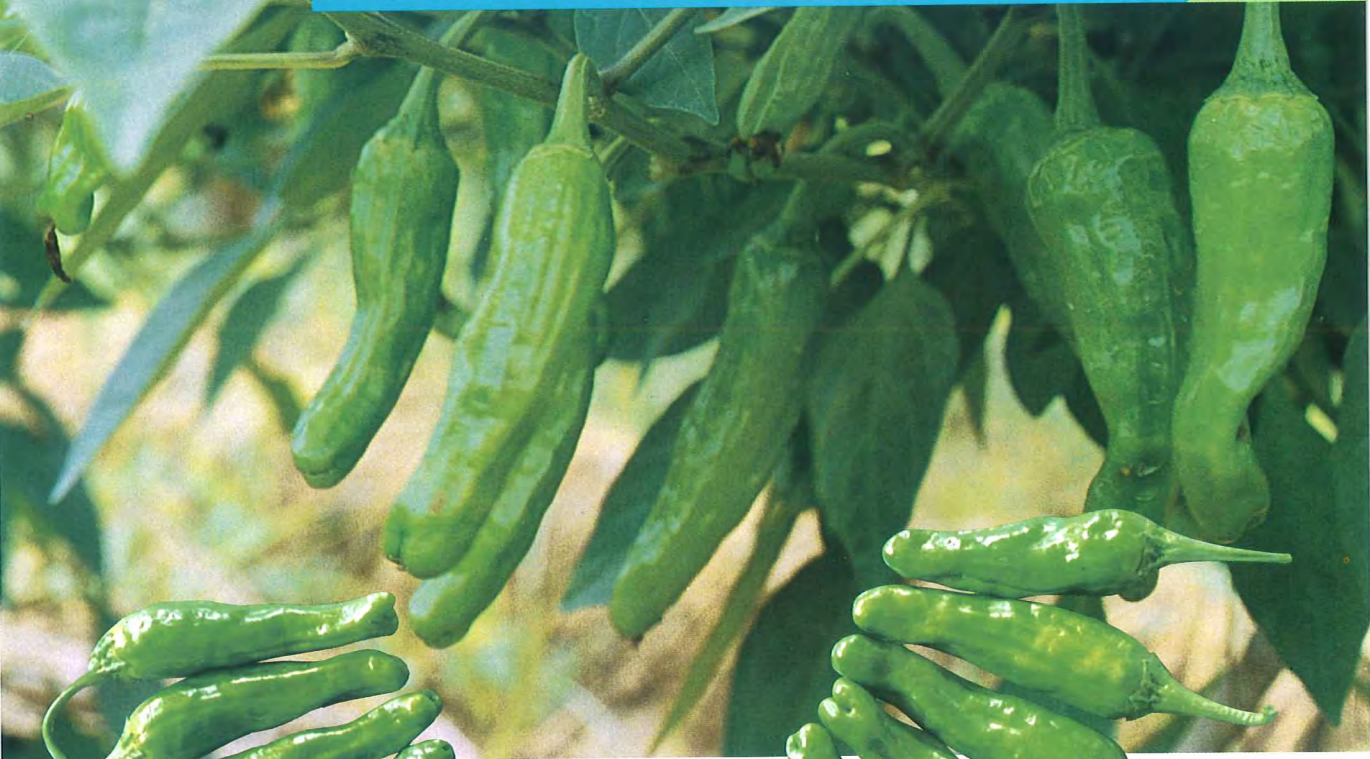


ナニト交配

# 葵ししとう



市場性  
抜群!

果形と収量  
抜群!

1. 雄性不稔を利用した一代交配種。
2. 雑種強勢により生育は旺盛、収量は2~3割増収。
3. 揃いがよく、しし率の安定する高秀品率。
4. 耐病性、耐暑性が強く夏バテ不知。



# 葵ししとう 栽培の要点



## 特 性

- 草勢は極めて強く、半開張性で節間はやや長い。
- 花数多く、整枝栽培では成りもどり果の果形良好です。
- 果実は、7cmの円筒で果先のしし率は高い。
- 促成栽培の低温期も花粉の発生が良く、石果は極めて少ない。
- 果実の肥大性が早く、果形良好で収量も多い。
- 追肥は、早目にやや多くすることが必要です。

## 育 苗

- 播種量は 10a当り40~60ml、トロ箱に条蒔すると管理し易く、発芽後の生育が揃う。
- 発芽適温は 28~30℃。最低10℃、最高35℃が限界で発芽後成長に従って温度を下げていく。日中28~30℃、夜温15~20℃、床温20~25℃を目安に管理する。
- 鉢上げは 本葉2枚頃に行い、茎葉が込み合ってきたらずらしをし、わき芽を早めに摘除する。
- 灌水は午前中に行い、夕方には土の表面が乾く程度とする。夜間の過温は徒長、病気の原因となる。

## 本畑の準備

- 根作りの点から深耕、有機物や石灰の施用をする。
- 元肥と畦立は定植10日前頃までに行う。  
肥料成分は N. 20、P. 25、K. 20を目安とし、畦は高畦にして排水をよくする。
- 地温は 15℃以上を確保する。また根の伸長適温は20~28℃にする。

## 定 植

- 定植7日前頃より苗の順化をはかり、活着を良くする。
- 定植期の苗は 土壌や気象条件により異なるが、一般的には1番花が開花し始めの頃が良い。
- 株間は 60cm(3.3㎡当り3本)を標準とし、浅植えする。

## 定植後の管理

- 日中28~30℃、夜間15℃以上を確保する。夜低温は石果や肥大不足の原因となり高温は着果に影響する。
- 比較的弱日照に耐えるが光合成不足により花付が低下する。呼吸消費を少なく、整枝や誘引により受光態勢をよくする。
- 水分は控めにして根張りを広げる。
- 着果の多い時や、乾燥期は適宜灌水して、草勢を保つ。

## 収 穫

- 収穫は 出荷規格に従い、とり遅れのないようにする。樹勢を維持して、収量、品質向上につなげる。

栽培型	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
ハウス促成	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ハウス半促成	■	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■	■
トンネル早熟	■	■	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■
露地	■	■	○	●	■	■	■	■	■	■	■	■

特約店